

信頼される企業であるために

※このページはTaKaRaグループ全体に関する内容です。

経営方針

TaKaRaグループは、穀物や水、微生物といった自然の恩恵をもとにした発酵技術と、最先端のバイオ技術をベースに企業活動を進めています。そして、自然の恵みに感謝するとともに、これらの技術を背景に消費者の皆様の視点を第一に考えた商品やサービスを提供することで「自然と社会と人間の調和」をめざしています。

2000年5月に発表した長期経営構想「TaKaRa Evolution-100」（略称：「TE-100」、Evolutionは進化、100は当社の第100期=2010年）では、この企業理念に基づいた経営方針として、「お客様の視点」、「人間尊重の視点」、「自然・社会との調和の視点」の3つの視点を大切に企業活動を行うことを掲げ、経営目標としてTaKaRaグループの企業価値の向上をめざしています。

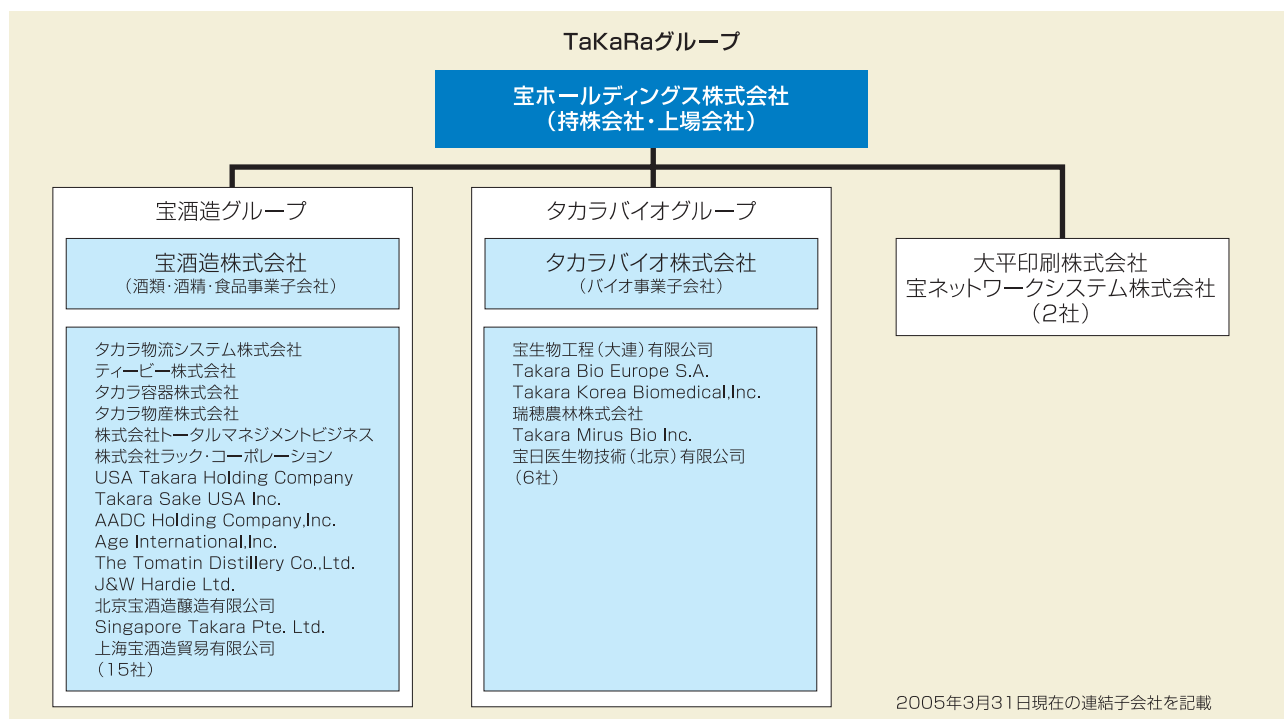
コーポレート・ガバナンス（企業統治）

TaKaRaグループは、2002年4月1日より持株会社体制に移行し、純粋持株会社「宝ホールディングス（株）」の傘下で、宝酒造（株）とタカラバイオ（株）他23社が事業活動を展開しています。持株会社体制下のコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方は次の通りです。

●TaKaRa グループ全体の企業価値向上のために

- ①グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげます。
- ②会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持します。
- ③法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制、危機管理体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たします。
- ④オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高めます。

■TaKaRaグループ企業の構成図



★コーポレートマークの意味

TaKaRaグループのコーポレートマークは1985年デザイナー亀倉雄策氏によって「調和」というテーマで作られました。このマークの外側の大きな3つの円は、自然と社会と人間の調和という企業理念を表しています。また、真ん中の小さな白い3つの円は、酒類、薬品、食品の事業領域の調和を表しています。そして、マークの真ん中の「T」の字の3つの先端は、株主、経営者、社員との調和、そしてもうひとつ消費、流通、生産との調和を表しています。

コンプライアンス、危機管理体制

TaKaRaグループでは、2004年4月に「コンプライアンス委員会」およびその具体的推進組織として「コンプライアンス推進室」を設置し、グループ全体のコンプライアンス体制・危機管理体制の強化を推進しています。

社員一人ひとりがどのように行動すべきかを、「コンプライアンス・マニュアル」にわかりやすくまとめ、全社員に配付しました。さらに、本社での集合研修や、各社・各事業場での教育啓発活動などにより、コンプライアンス・マインドの定着・浸透をはかっています。また、法令違反や不正行為などを発見した場合に、通報や相談を受け付ける窓口「ヘルプライン」を設け、リスクの早期発見、早期解決に努めています。

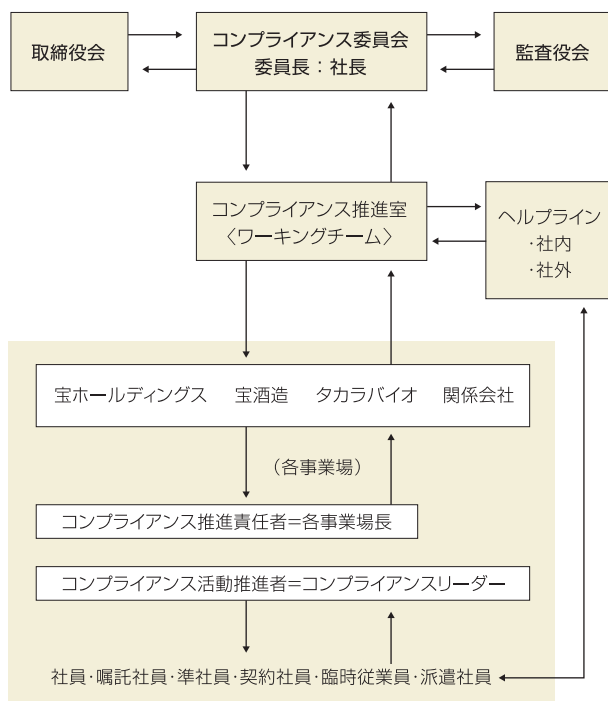


コンプライアンス研修



コンプライアンス・マニュアル

■TaKaRaグループ コンプライアンス推進体制



●品質保証について

商品の安全と品質に万全を期すため、宝酒造（株）では品質保証部を組織し、その下にお客様相談室および品質保証課、品質表示課を設置し、品質管理を徹底しています。

●飲酒問題について

適度な飲酒はストレスを緩和し、人間関係を円滑にする役割を果たすと言われてしています。しかし一方で、慢性飲酒による臓器障害、アルコール依存性、未成年者飲酒、妊婦の飲酒を通じた胎児への影響といった種々の問題を有することも見逃せません。これらの問題を認識したうえで、酒類の製造、販売を行う企業として、人々の健康を維持増進し、社会的責任を果たす観点から「節度ある適度な飲酒」を普及啓発するさまざまな取り組みを行っています。

●環境問題について

事業活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為であると考えます。その事実を真摯に受け止め、地球環境への負荷を削減する努力と、事業利益の社会還元として、自然保護活動等の社会貢献活動を行う努力を企業としての責務と考え、環境活動を推進しています。

●情報の管理について

企業情報や個人情報の管理に関しては、管理体制の構築、責任者の設置、従業員に対する継続的な研修会の実施等、情報の漏洩を防ぐための万全の努力をしています。

●情報開示について

株主などのステークホルダーの皆様への情報開示については、宝ホールディングス（株）が窓口となり、「決算短信」、「事業報告書」、「アニュアルレポート」、などの各種報告書を配布。また、証券取引所や宝ホールディングスのウェブサイトを通じた情報開示、決算説明会やIRミーティングを通じた情報開示などを積極的に行っています。